

事業概要

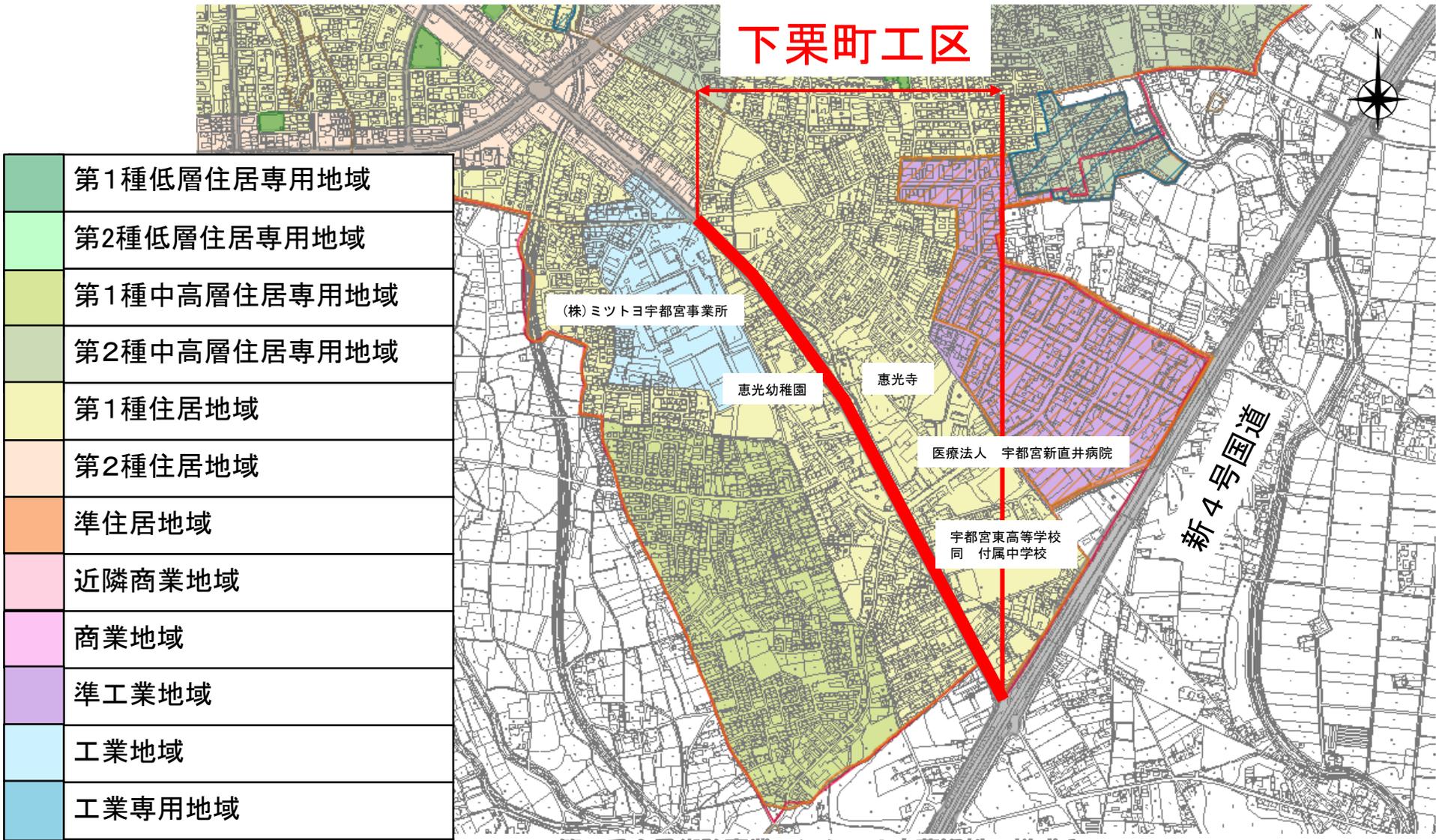
(栃木県：(都) 鹿沼宇都宮線)

応募No.	5		
事業主体	栃木県	事業箇所	栃木県宇都宮市下栗町地先
応募者名	栃木県宇都宮土木事務所		
ふりがな 事業名称	うつのみやとしけいかくどうろ 3・3・1ごう かぬまうつのみやせん(しゅようちほうどう うつのみやもおかせん) うつのみやし しもぐりまち 宇都宮都市計画道路3・3・1号鹿沼宇都宮線(主要地方道 宇都宮真岡線)宇都宮市下栗町工区		
事業概要 (400字以内)	<p>本事業は、栃木県の県都である宇都宮市の中心部を東西に貫き、東北自動車道鹿沼ICと新4号国道を結ぶと共に、鹿沼市、宇都宮市、真岡市の都市連携を図る都市計画道路(約11.8km)のうち未整備区間(約1.3km)のバイパス化及び拡幅を実施したものである。</p> <p>事業区間の現道は、交通量が非常に多いにもかかわらず、右折車線のない道路であるため、慢性的な交通渋滞が発生していた。更に、近隣学校の通学路でありながら、歩道がなく、自動車・自転車・歩行者が混在する危険な状況であったため、自転車・歩行者の安全確保が望まれていた。</p> <p>このため、「都市間の連携の強化」、「交通渋滞の緩和及び安全で快適な通行空間の確保」、「都市間防災機能の強化」を目的として、平成17年度から事業に着手し、平成30年3月に供用を開始した。</p>		
事業規模	事業延長(km)	約1.3km	
	幅員(m)	約25.0m	
	事業期間(和暦)	平成17年～平成29年	
	事業費(億円)	約50億円	
受賞歴	無		
URL			

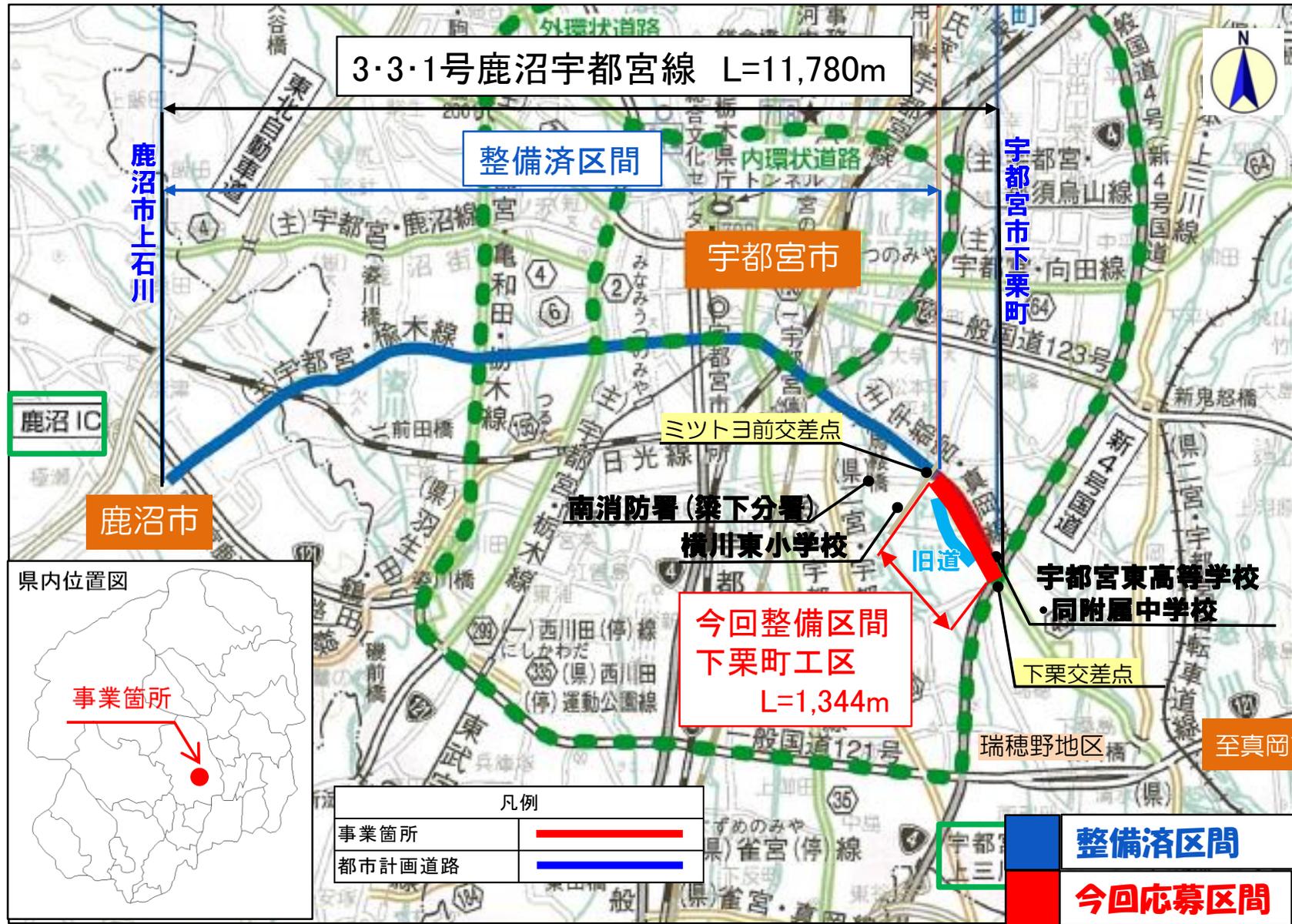
事業位置図



都市計画図(用途地域図)



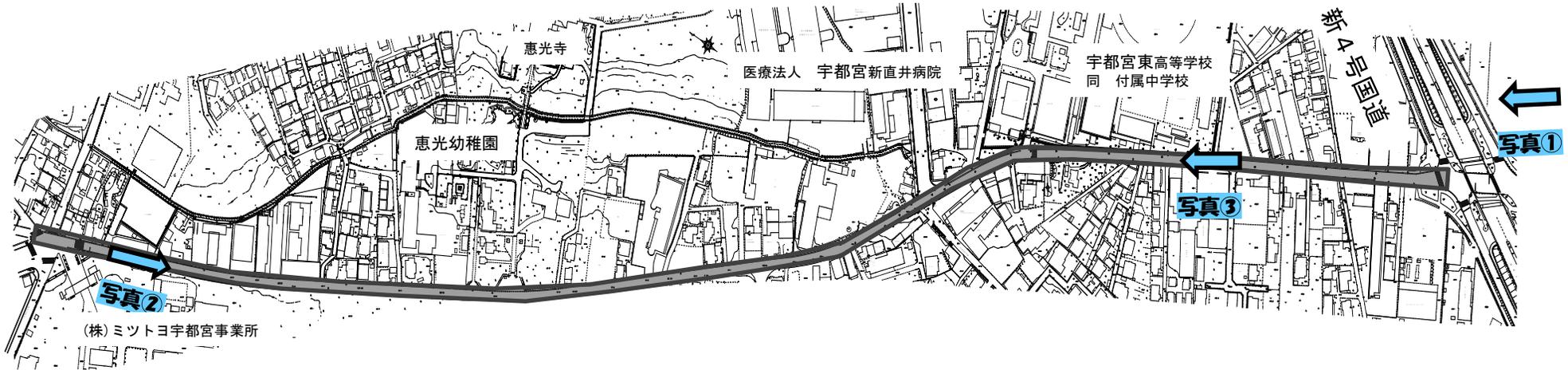
路線全体の進捗状況



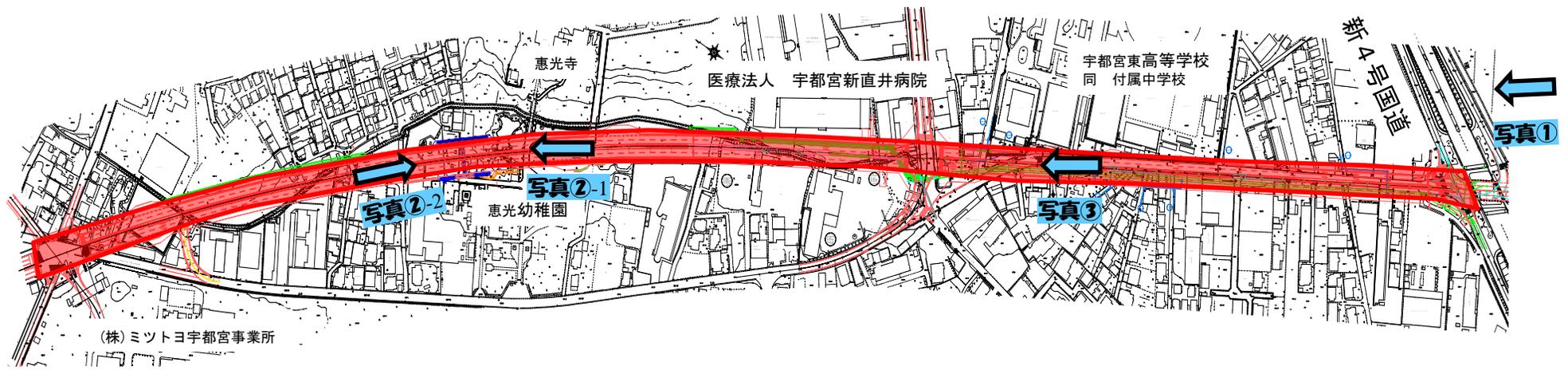


平面図

事業前



事業後



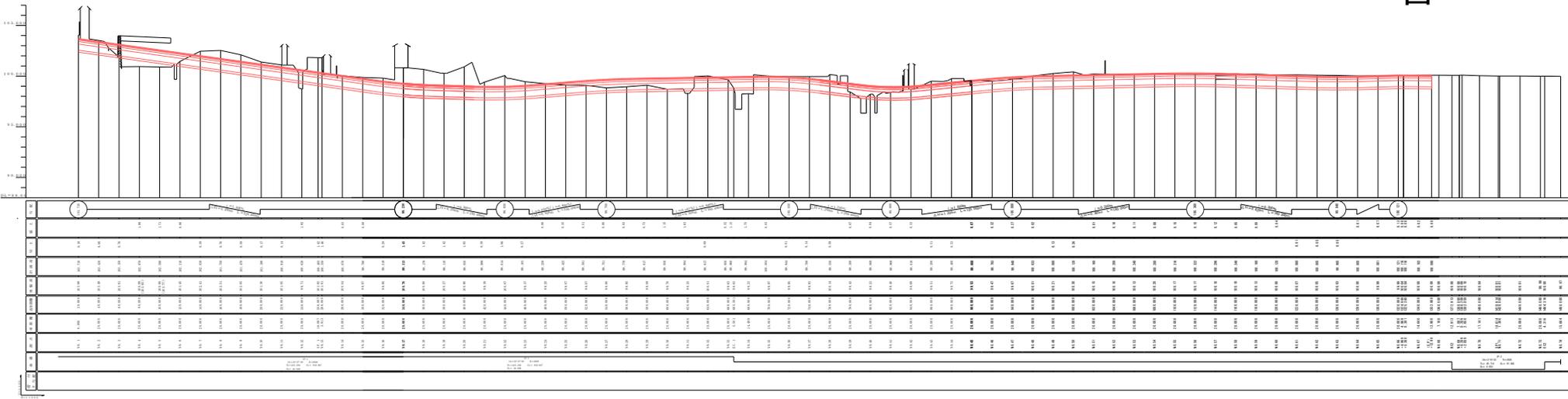
縦断図

事業前：黒

事業後：赤

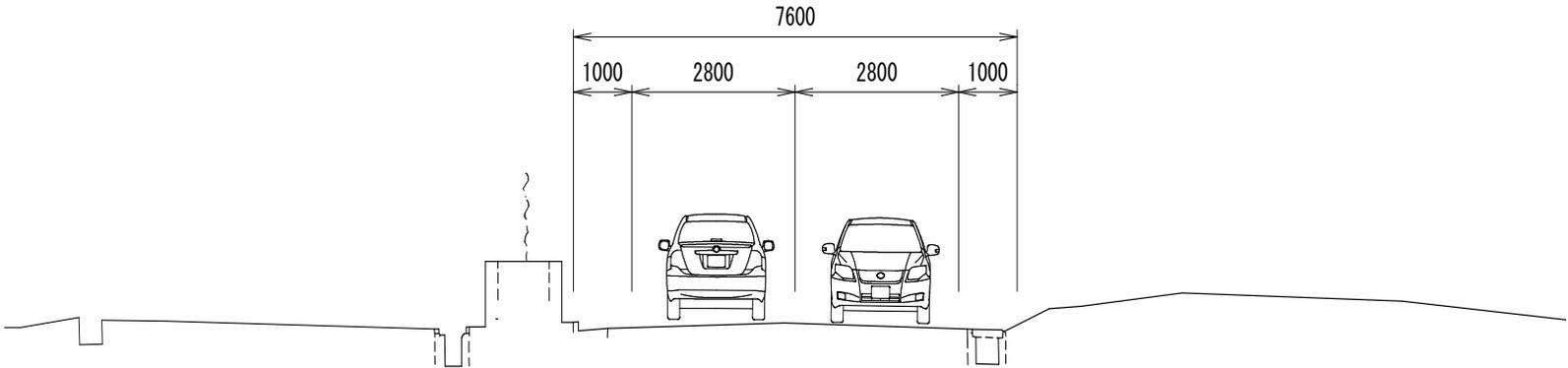
至
鹿沼

至
宇都宮

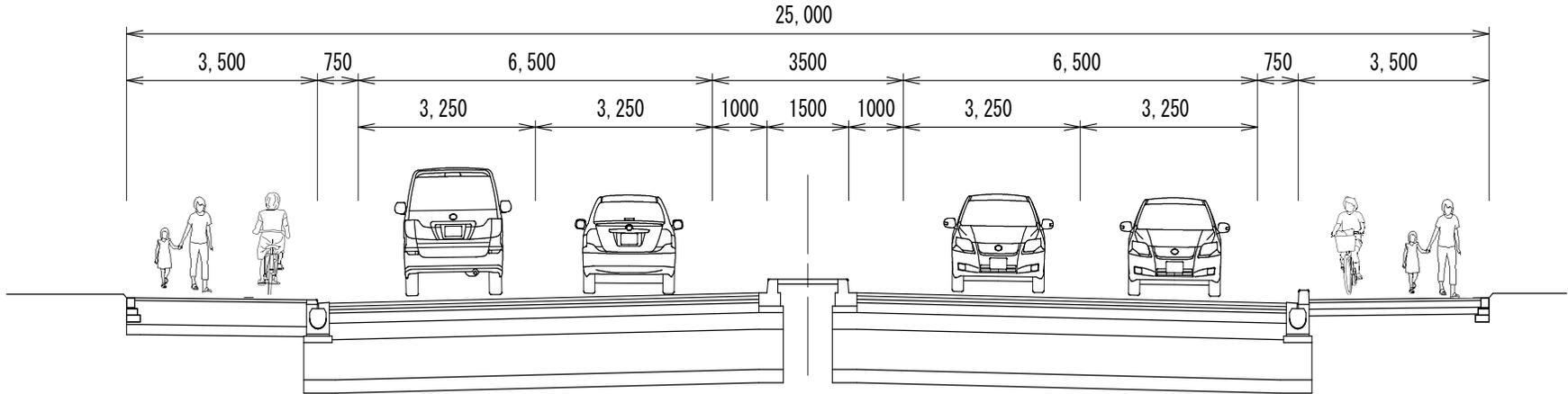


横断図

事業前



事業後



事業前後写真

写真①



至 真岡市

事業前写真

写真②

整備前



2008年1月撮影

写真③

整備前



2008年7月撮影

事業後写真

写真②-1

整備後



写真③

整備後



2015年1月撮影

(栃木県：(都)鹿沼宇都宮線)

写真②-2



2015年12月撮影

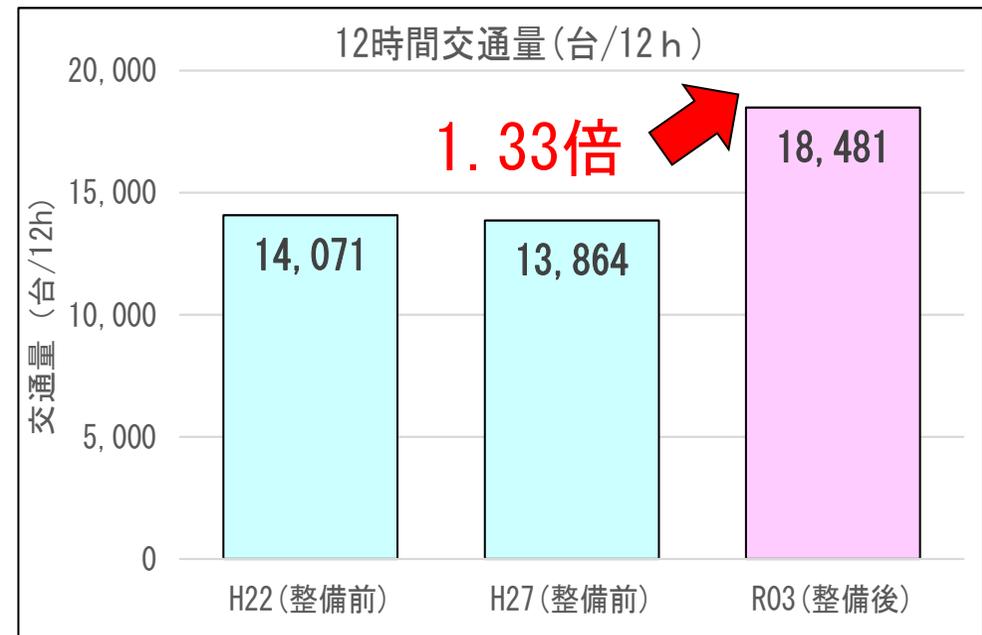
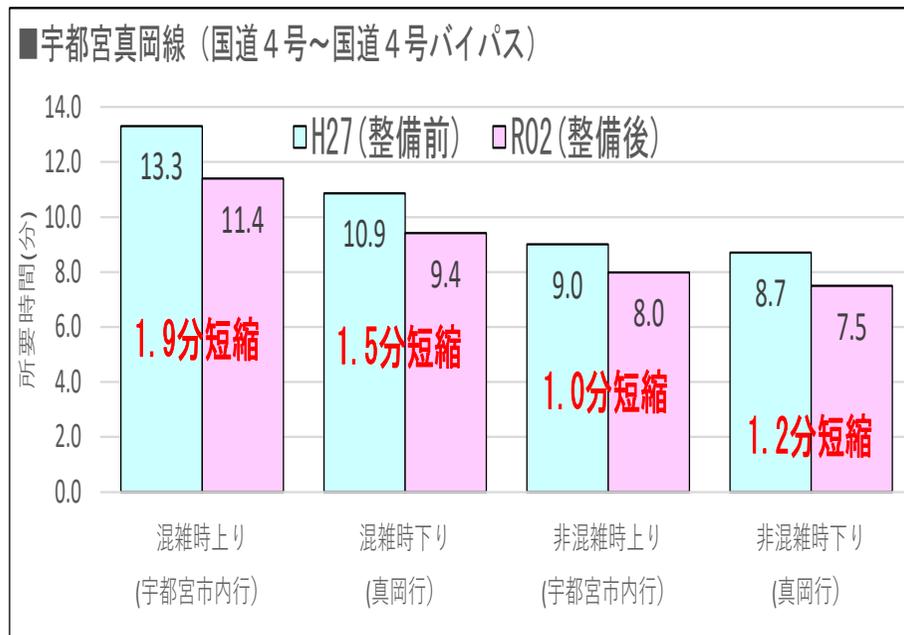


事業効果アピール資料

(1) 都市間の連携の強化

- ・整備に伴い、国道4号から新4号国道までの所要時間が短縮していることから、都市間の連携が強化されている。
- ・また、交通量が1.3倍以上増加し、都市間連携の強化が交通量の増加に現れている。
- ・都市間の連携が強化され利便性が向上したことにより、人口の増加にもつながったと考えられる。

横川地区人口 平成15年：12,515人 → 令和4年：16,949人 **約35%増加**

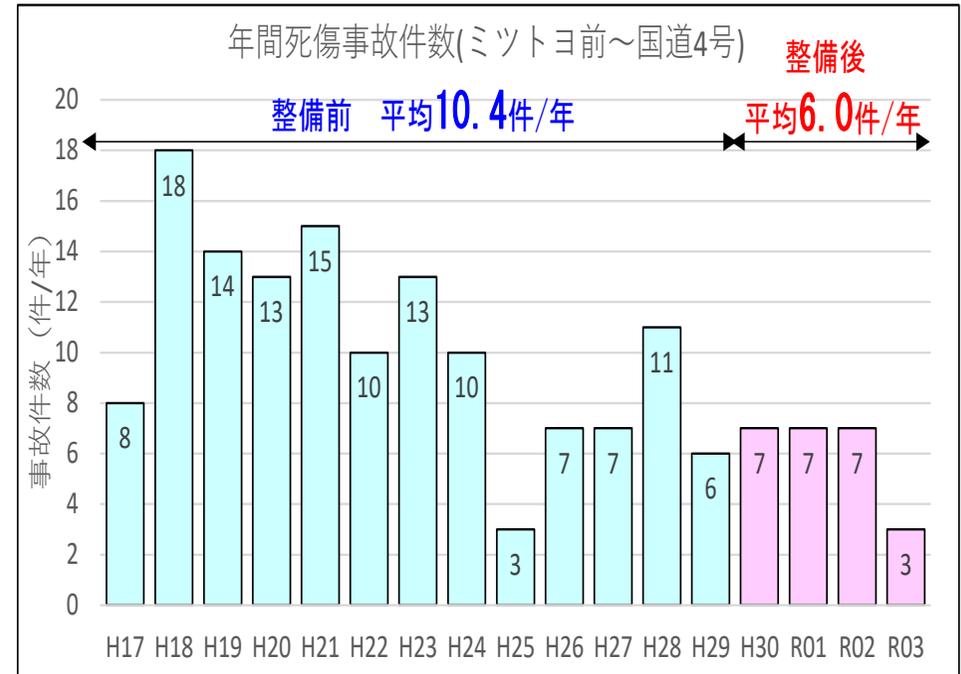
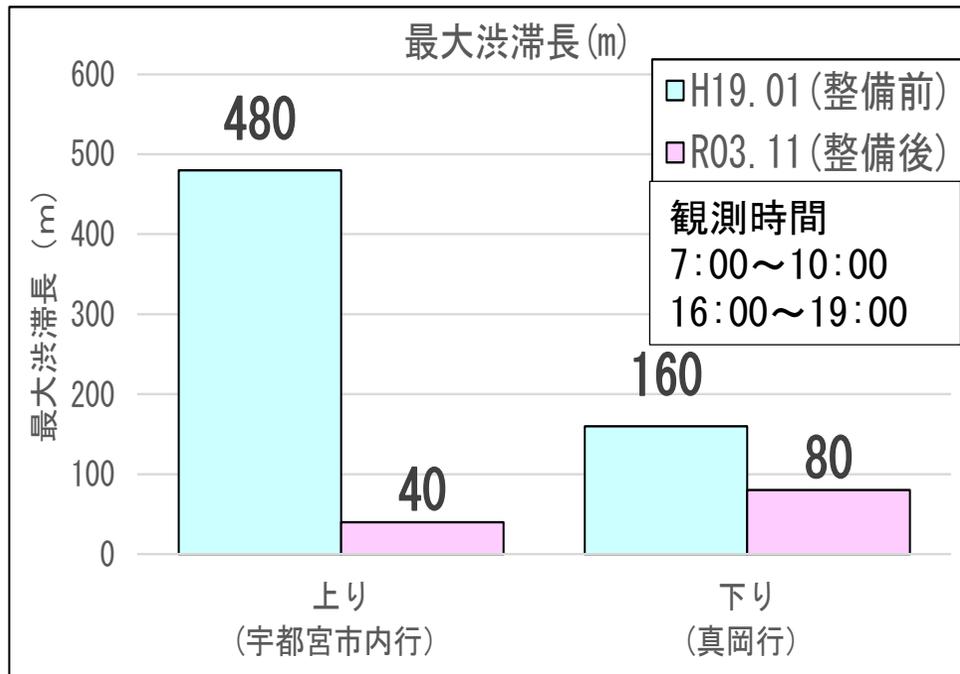


事業効果アピール資料

(2) 交通渋滞の緩和及び快適で安全な通行空間の確保

- ・ 2車線から4車線に拡幅されたことで、「ミットヨ前交差点」の最大渋滞長は上り・下りともに大きく減少している。
- ・ また、車道の4車線化や広い歩道・自転車道を整備したことで、整備前よりも交通事故発生件数は減少しており、地域の安全性は向上している。

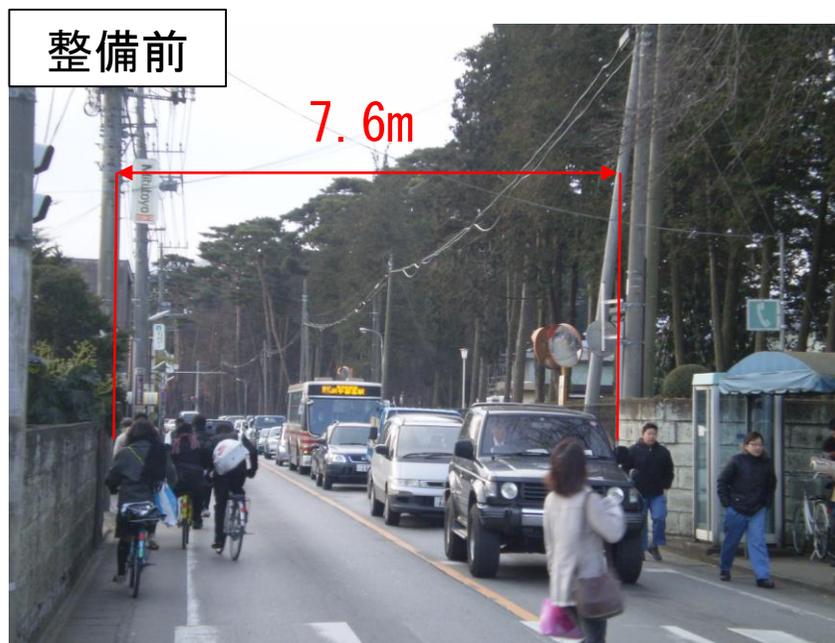
交通事故発生件数 整備前：10.4件／年 → 整備後：6.0件／年 **約42%減少**



事業効果アピール資料

(3) 都市防災機能の強化

- ・ 宇都宮南消防署へのヒアリングの結果、整備前と比べて、現場到達時間の短縮や輸送経路の安全性が向上されていることを聞き取ることができ、救急救命活動に寄与していることを確認できた。
- ・ 道路幅員が拡大したことで、都市防災機能の強化に寄与している。



4車線化



苦労や工夫等アピール資料

(1) 地元のニーズに即した整備

- ・本事業は広幅員道路を密集市街地に整備するため、地元企業や幼稚園、学校、病院などとの調整が必要であった。
- ・地元への説明を丁寧に行い、周辺文教施設利用者の安全確保のための横断歩道橋整備やバイパス開通に伴うバス需要増加に対応するためのバスベイ設置等の整備要望を積極的に事業計画に組み入れることで地元との連携を深め、地元ニーズに寄り添った整備を目指した。

渡り初めの様子



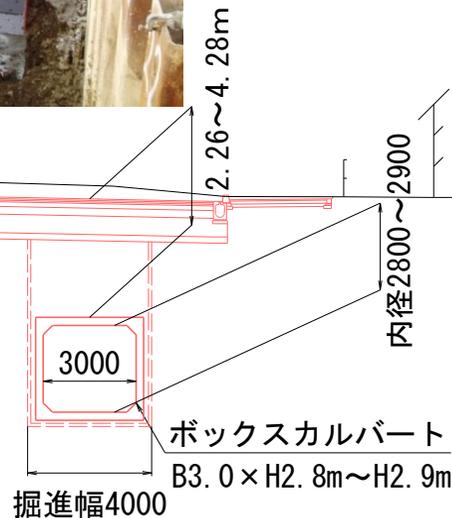
バスベイ設置箇所



(2) 浸水被害への対策

- ・近年、宅地開発や市街化進展により、本事業区間の一部を含む大久保谷地川の沿川では、河川からの溢水により道路冠水(通学路)や家屋の**浸水被害が頻発**(H20.8、H28.8)。
- ・河川管理者である宇都宮市は、沿川に住宅が密集し引堤等による拡幅が困難であることを鑑み、**道路下を活用した地下河川を新たに整備**することとし、本街路事業区間においては、県が道路工事と併せて河川工事を実施。
- ・なお、周辺への影響を最小限にするため、オープンシールド工法を採用。
- ・県による街路事業と市による河川事業が連携し、**「水害につよいまちづくり」を目指す**。

施工状況



受賞歴・報道資料

平成27年12月20日 下野新聞

平成27年12月22日 日刊建設新聞